

構想調書課題に対する化学系ユニットの回答

2016. 09. 10

①-2: 共同実施科目の開設

別途報告済み

①-5: 修了認定基準について

別途報告済み

①-6: スーパーグローバルコースにおける開設科目を、他専攻・他研究科へ開放する。他研究科、他専攻において、スーパーグローバルコースの科目を取得することを「副専攻履修」と認定する。

本ユニットは、工学研究科の「博士課程前後期連携教育プログラム」の中で、複数の専攻が関与する「融合工学コース」の1つに位置づけられている。開設科目は、インターンシップなどの特定の科目を除き他専攻に開放されている。また、副指導教員は原則他専攻から選出され、「副専攻履修」に近い形態が既にとられている。

①-7: 学部学生へ単位を与える履修

ILAS(アイラス:旧ポケゼミ、少人数教育科目群)を参考に検討していきたい。

現時点においても JGP セミナーなど、特定の科目は研究室に配属された4回生も受講している。しかしながら、その単位化はできておらず、今後教育制度委員会等を通して検討を進める。

①-10: 今後の作成に関する方針

本年度、新規 1 件、および昨年度作成したものの更新1件を予定している。今後、作成済み教材の有効利用法や、作成、実施ノウハウをどのように蓄積していくかを検討していく。

②-9: 英語での提供科目の増加戦略

現時点で、本コース履修生は、25 科目 30 単位を英語で履修可能である。今後、協力専攻への働きかけや教員の海外教育実習による英語での教育力強化を進め、英語での開講科目増を図る。

②-10: 英語のみで修了可能なコース設定

②-9 で示したように、現時点において 30 単位を英語で履修可能であるが、内容が広く分布しており、特定の分野を専攻する履修生にとっては、英語での開講科目数は十分でない。今後、まず各専攻 1 科目の英語講義増を実現し、②-9 の施策を進めることで順次英語科目を増加させ、英語のみで修了可能とする。

②-15: 英語シラバスの整備

英語で開講している科目については、本年度中に整備する。また、日本語で開講されている科目についても、担当教員に英語シラバスの作成を強力に要請する。

②-19: 渡日前入試、入学許可

現在、MIT を海外連携大学として、協力関係強化を進めているが、MIT を対象としてジョイントディグリー、ダブルディグリーを進めることに関しては、かなり困難と認識している。よって、渡日前入試、入学許可を議論するフェーズに達していない。今後、ヨーロッパの大学との関係を強め、まずジョイントディグリー、ダブルディグリーの可能性を検討していく。

②-24: 情報発信

既に独自の Web-site を開設し、情報発信を行っている。また、化学系への訪問者への配布や、工学研究科内外への認知度向上を目指し、全学 JGP パンフレットから化学系のみを抽出したパンフレットの作成を検討している。

②-34: 学生の実質的学び時間確保

MOOCs 教材の学部、大学院講義への活用について、検討していく。また、海外連携大学教員などに依頼している JGP シリーズセミナー(4 回の講義で 0.5 単位)について、復習等に利用できるようにビデオ撮影が可能か、検討を進める。